いいね、北海道。

IT'S LIGHT HOKKAIDO

人に、自然に、未来に。

VOL. 1

ふり返ってみますと、実に変化の大きな
八年間であったように思います。
難題に直面し、「道民にとっていま何が必要か」
という観点に立って思い切った
選択をする場面も何度かありました。
私自身、反省することもありました。

この小冊子は、道民の皆さんとともにたくましく歩んできた横路道政をダイジェストしてまとめたものです。1983年に、「静かなる改革」を掲げてスタートした横路道政。この8年間で、北海道の産業経済は力強く変り、生活や文化活動、国際交流にも新しい息吹がたくさん芽ばえました。いま、世界も、北海道も、歴史的な大転換の渦中にあります。

この中にあって、横路さんは既存の枠組みにとらわれないニューフロンティア魂で、新しい北海道づくりを訴え、人間と自然が響きあう21世紀の生活づくりをダイナミックにおしすすめようとしています。

三期目に向け、さらに力強く前進しようとする横路さんに期待しましょう。

いいね北海道。いいね人間。
美しい大地で、やさしさにであう。

横路さんは「村おこし、町おこし」に代表されるように、人と人とのつながりを大切にして道政をすすめています。これが地域の活力を生み、産業の、文化の、そして国際交流のエネルギー源になって、新しい北海道をつくりあげてきました。

横路さんはこれらをさらに発展させて、生活者の心がかよう、「人にやさしい北海道」づくりを提唱し、その大事業の実現にむかって若い情熱をたぎらせています。

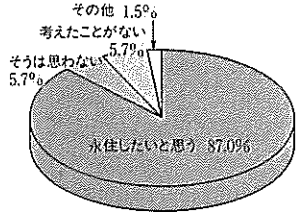
DATA

都道府県イメージ調査

総合第1位 北海道
2位 大阪
3位 神奈川
4位 東京

※日経産業消費研究所調査(90.7)

(調査項目)
1. 活力がある
2. 親しみがもてる
3. 家取得が容易
4. 自然が豊か
5. 文化、歴史がある
6. 積極的で明るい
7. 人情味がある



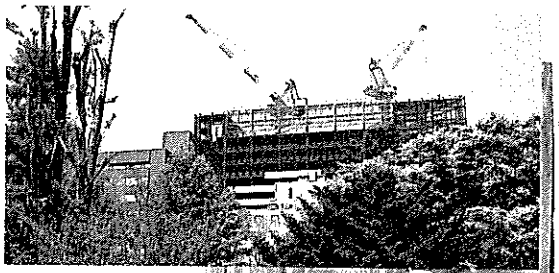
北海道に永住したいと思っていますか
(道民世論調査/読売新聞社'90年11月)

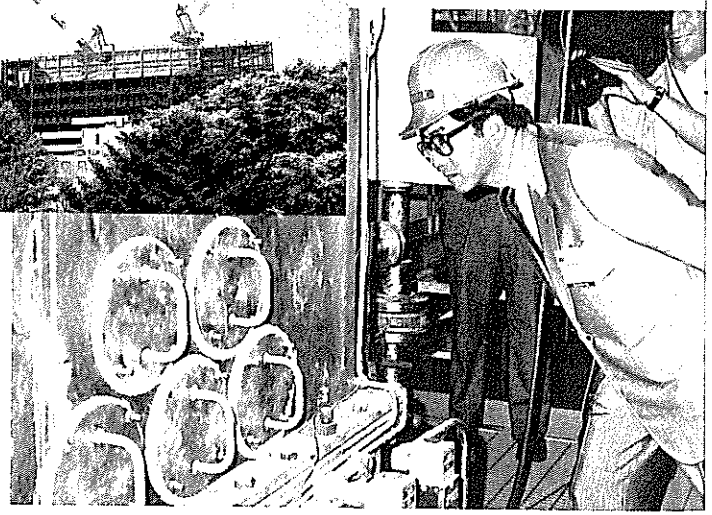
公共事業依存型から自立経済へ

成長産業の導入を積極的にすすめました。

自立する経済をめざす

横路道政がめざしたものは、まず、自立する経済でした。公共事業依存型経済から転換することと、産業構造の高度化をはかることを目標に、地場産業の振興、情報関連産業や電気機械工業など新しい成長産業の導入、たくましい農林水産業の育成の三つを柱にすえ、北海道の激動の時代に対応してきました。





地域にマッチした振興策の実施

地場工業に対しては、振興条例を制定して新製品の研究開発、事業化、人材の育成などに助成し、融資制度も充実させました。

異業種交流プラザの促進にもつとめ、1990年度で、交流活動を行っている企業は 54グループ1,633社 におよんでいます。

商業の振興では、魅力ある商店街づくりの推進、活性化推進事業などを展開中です。また、「地域生活経済圏」構想や一村一品などで過疎化に歯止めをかけ、人口定着に取り組んできました。

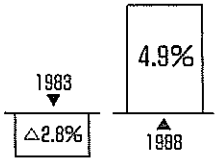
知事を先頭にした企業誘致活動

産業拠点の整備、試験研究機能の充実強化、産業技術のネットワークづくりは、科学技術の急速な進歩に対応する横路道政の施策のひとつです。

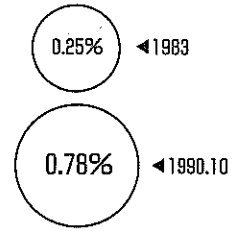
その代表的なものに、函館、道央のテクノポリス建設、先端技術分野での産学官共同研究の実施、地場工業技術ネットワークの推進などがあります。また、知事を先頭にした企業誘致活動によって企業立地も順調に増加しています。

これらの産業を支える高度技術者の確保も重要であり、東京にUターン情報センターを設置して、本州からのUターンによる人材確保を促進しています。

DATA

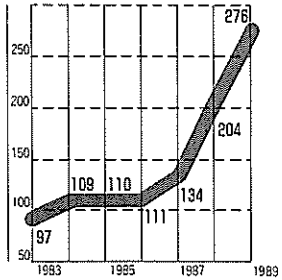


▲北海道の実質経済成長率



▲有効求人倍率

●情報関連の事業所数482社
全国有数の集積



▲企業立地数の推移

人、物、情報の往来—

国際交流の輪が大きく広がりました。

世界にひらかれた北海道

近年、国際的な相互依存が高まって、北海道の産業経済や道民の暮らしにも国際化の波が押し寄せてきています。

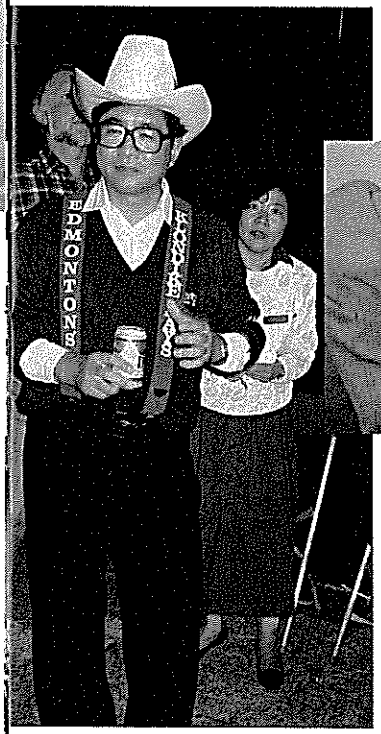
横路道政は、自治体外交を積極的に展開し、友好交流の推進、国際経済交流の促進、国際交流基盤整備の三つの柱をかかげ、その実現につとめてきました。

積極的な国際交流

友好交流の主なものは、中国の黒竜江省やアメリカのマサチューセッツ州との姉妹提携です。

経済交流の促進では、北海道が中心になってカナダのアルバータ州、中国の黒竜江省とのトライアングル交流があり、また、ソ連極東地方などとの経済交流の促進も両地域の親善に大きく寄与しています。

とりわけ、コンスタンチン君の「やけど治療」の受け入れは、北海道とサハリンの距離を一気に縮め、今後の友好交流の進展に弾みをつけました。



国境を越えた地域間の交流

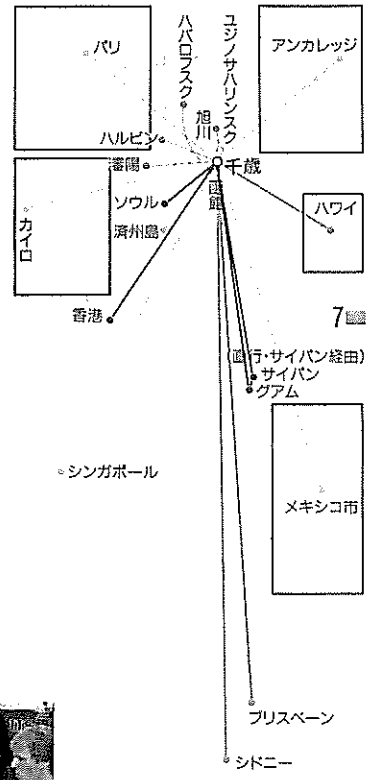
国際交流基盤の整備では、新千歳空港の国際空港化への一連の取り組みで、札幌国際エアカーゴターミナル株式会社への出資をふくめ、その積極的な姿勢は世界の注目を集めました。

このことが、エアカーゴテストチャーター便の就航や、現在の韓国、香港、グアム・サイパンとの直行便につながっています。また、北海道を国際的な観光地として売り込むため、環太平洋観光サミットや東南アジア観光キャンペーンなどを展開してきました。

同時に、語学指導のため外国青年をまねいたり、外国人への生活情報の提供、留学生の支援や道立施設への入場無料化など、暮らしの中の国際交流も幅広く行われてきました。

DATA

増える北海道からの直行便



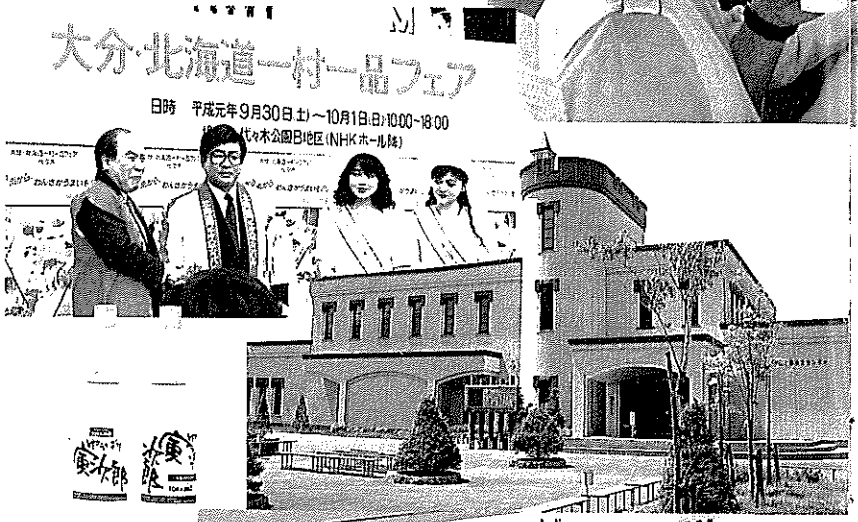
ふるさとに付加価値をつける

これが一村一品運動のはじまりです。

きびしい経済社会情勢だった1983年当時

横路道政がスタートした1983年(昭和58年)当時は、鉄びえによる溶鉱炉の閉鎖、炭鉱の閉山など経済産業情勢がきびしく、地域社会は低迷し、過疎化がさらにすすんでいました。

横路道政は、まず、活力ある地域社会づくりをめざし、地域格差の拡大に歯止めをかけるため、数々の積極的な施策を展開しました。

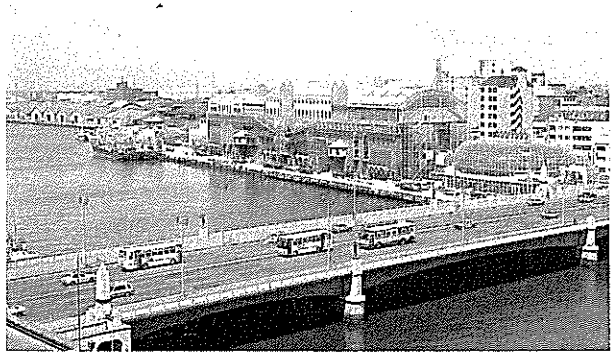


一村一品運動で地域は活性化

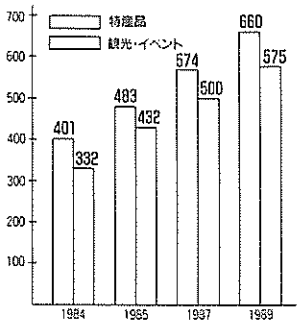
その施策の代表格が、横路道政の柱でもある地域おこしの推進。具体的には一村一品運動の提唱とその全道展開、地域づくり推進事業の実施、村おこし町おこしの地域リーダーの交流と人材ネットワークの充実などです。

魅力ある地域社会が見えてきた

現在、212市町村すべてで一村一品運動が展開され、成果をおさめています。また、地域づくり推進事業についても、1990年度までに36の地域プロジェクトが推進組織を設置し、31が基本計画を策定しています。



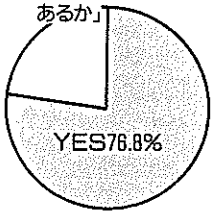
DATA



▲一村一品運動の事例数

1989年8月、212の市町村を対象にした調査結果によると

「運動は盛り上がりがあるか」



「運動はまちづくりに役立っているか」

また93.9%の市町村が一村一品運動の支援を実施。

主な地域プロジェクト

- **青函経済文化圏の形成**
  青森県と道南圏の交流を深め、新しい経済文化圏をめざす。
- **ニセコ国際健康文化都市構想**
  健康と文化を基調とした、国際的な北方高原都市の形成をめざす。
- **北海道富良野・大雪リゾート地域の形成**
  恵まれた自然環境を生かし、国際レベルの山岳型リゾートの形成をめざす。
- **オホーツクロード構想**
  豊かな自然環境を生かした、広域的な観光レクリエーションの場の形成をめざす。
- **十勝ニューカントリーライフの創造**
  情報化時代にあった、新しいスタイルの生活や文化の創造をめざす。
- **釧路フィッシャーマンズワーフ構想**
  個性を生かしたまちづくりなど、定住性の高い生活環境の整備をめざす。

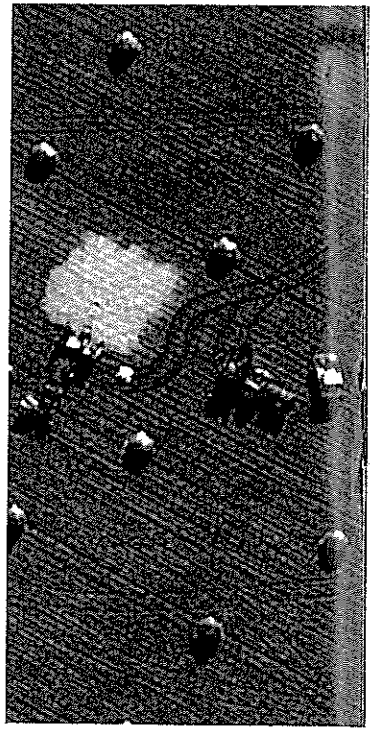
基幹産業の強化育成―

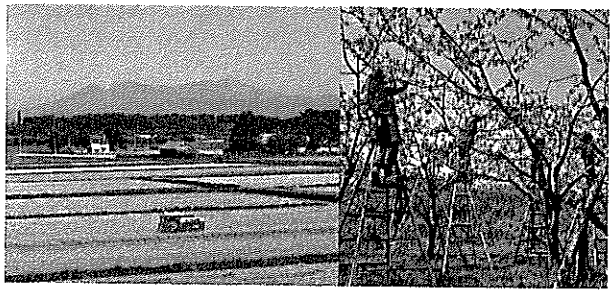
強い農・林・水産業がねらいです。

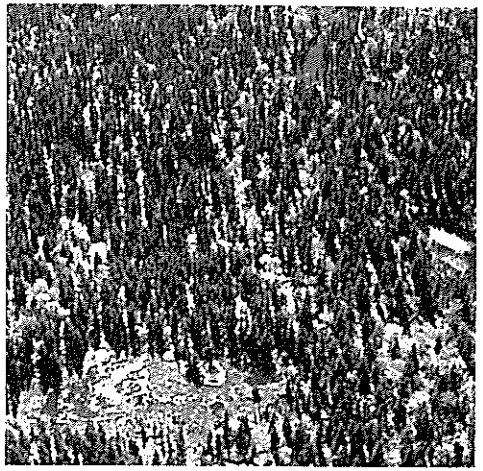
国際化に対応できる農業

コストに挑戦する農業、農産物の高付加価値化、農村と都市との連携による農村環境の整備を柱として横路道政の農業政策はスタートしました。

低コスト高生産性農業基盤づくりでは、地域農業のガイドポストの実践や野菜、花きの特色ある産地づくり、酪農における農業情報のシステム化などをすすめました。また、ゆきひかり、きらら397、チホク小麦にみられる優良品種の開発・普及に大きな力を注ぎ、国際化に対応できる体質の強い農業づくりをすすめてきました。







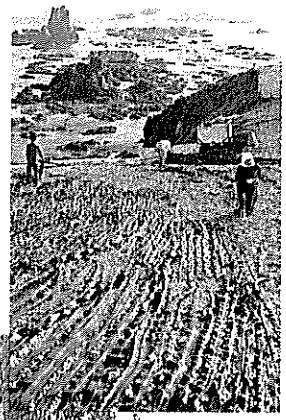
暮らしと林業のかかわりを深める

林業では、森林と道民のふれあいの促進、木を生かした暮らし、道産材の利用促進などをかかげ、緑の保全と森林の利活用をすすめてきました。

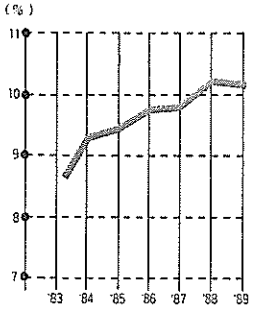
スポーツ、レクリエーション施設を備えた道民の森の整備、道産材の消費拡大を目的とした木の良さ再発見運動、ウッドクラフト振興対策事業など暮らしと林業との関わりを深める施策を行っています。

つくり育てる漁業

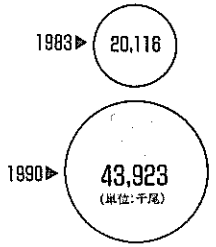
栽培漁業の振興、漁業経営の安定、新しい国際漁業の体制づくりなど、つくり育てる漁業を施策の柱としてきました。日本海地域の漁業振興対策では、特にサケ・マスふ化事業を積極的に行い、その結果大幅な漁獲量の増加をみました。中小漁業者対象の国際水産プロジェクトの設置、海洋レクリエーション施設の整備など、国際漁業への対応と周辺海域の有効利用も積極的にはかっています。



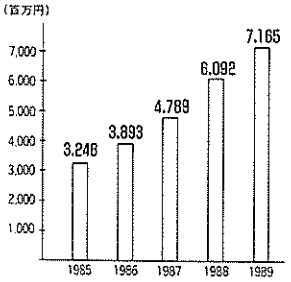
DATA



▲農業粗生産額
(全国に占める割合)



▲サケ・マス漁獲量



▲花きの生産額

モノからココロへ—

豊かな自然のなかでヒトを創ります。

人間的環境の形成

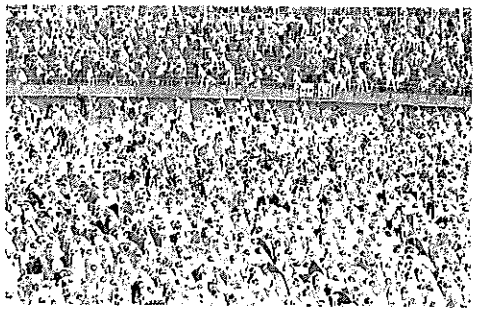
時代の変化に対応した教育の拡充、女性の自立促進、北国らしいまちづくりの促進、豊かな環境づくりなど人と自然を育む「北海道らしさ」の創造をめざして諸施策が行われました。

人々の価値観が「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと変り、暮らしの選択肢が多彩になったことから、これにいち早く対応したものです。

学校教育・文化・スポーツの充実

学校教育関係では、とくに心身障害児教育の充実につとめ、国際、情報系の学科をもつ新しいタイプの高校を設置。私学助成の充実もはかってきました。

地域における文化、スポーツ、生涯学習などの振興のための生活文化関連事業をはじめ、図書館、博物館などの文化の振興、はまなす国体を契機にした地域スポーツの振興も特筆できる施策です。



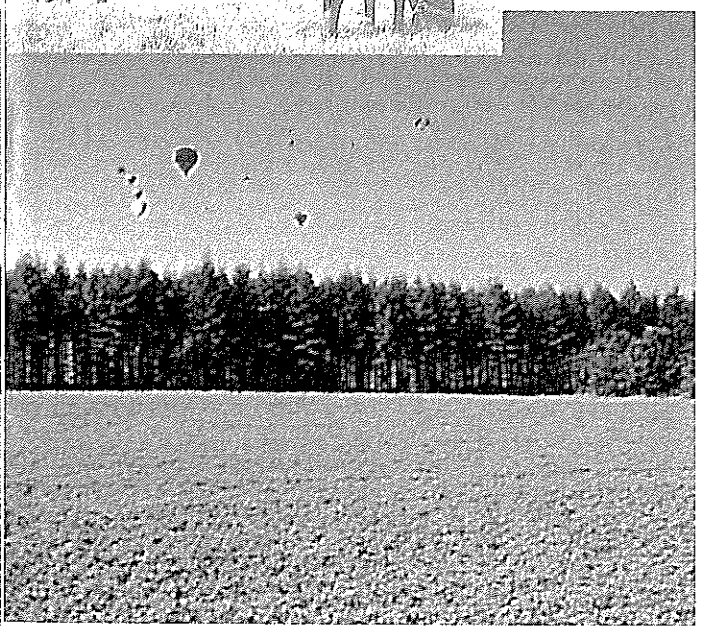
自然と人間が共生する北海道づくり

自然は一度破壊されると元には戻らないーという観点から、開発を規制する自然環境保全指針を策定し、環境保全活動の財源を確保するため環境保全基金を設立しました。

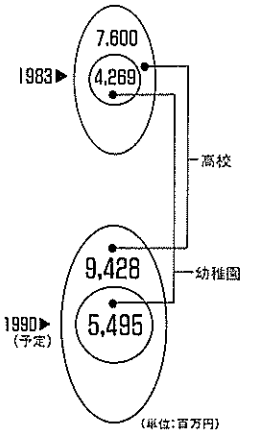
また、リゾート開発やゴルフ場に対しても指針や要綱を定めて規制を強め、大切な一次産業や環境を守るため国の核廃棄物施設建設に反対しています。

観光立県をめざして

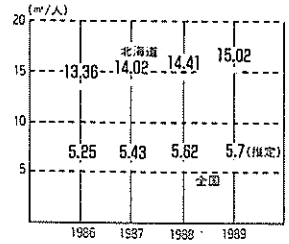
観光アクセスの整備やさわやかトイレ運動などをすすめる一方、通年型、体験型観光の振興をはかってきました。



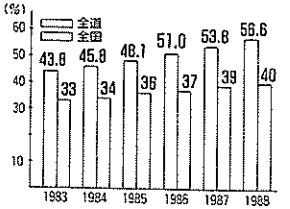
DATA



▲私学助成・学校運営費の推移



▲公園の整備状況



▲下水道普及率

やさしさと豊かさ

温かい地域社会づくりをすすめてきました。

福祉・保健医療の充実

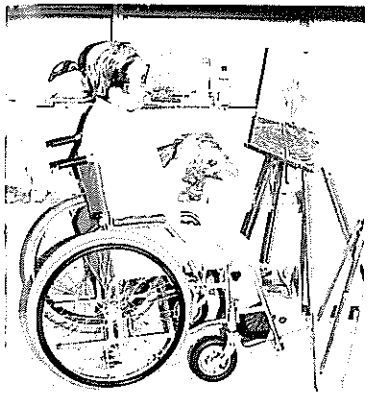
1983年ころから、高齢化や核家族化が顕著になり、どこにいても安心して暮らせるよう福祉・保健医療などの充実が強く望まれていました。

これに対して横路道政は、道民参加の福祉の取り組み、ボランティア活動の活発化、温かいコミュニティづくり、高齢化社会に対応する施設の充実などをめざし、その実現にむけ数多くの施策を行ってきました。

ひろがるノーマライゼーションの考え

まず、新福祉長期計画を策定して、諸施策が公正に遅滞なく行われるよう全道的な福祉の体制を整備しました。

ついで、ケア付き住宅やノーマライゼーション・エリア事業に取り組みましたが、これは、障害者や高齢者が地域社会で普通の生活ができるようにするという考えにもとづいたもので、今日では、地域の中にこの考えがひろく浸透しています。

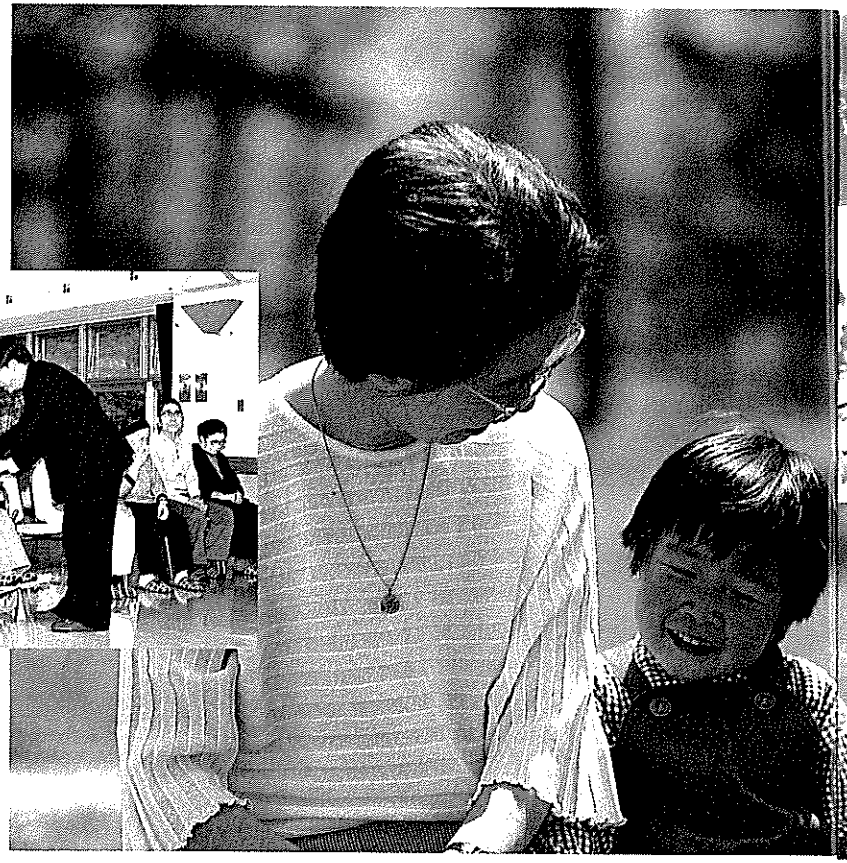


人生80年型社会に対応

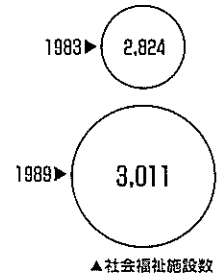
地域の福祉サービスでは、心身障害者の小規模授産施設の支援、身体障害者や精神薄弱者の福祉工場の整備も行っています。

高齢者には、高齢者地域ケア・モデル事業の実施をはじめ、在宅老人のデイ・サービス、痴呆性老人介護指導事業などの施策を行っています。

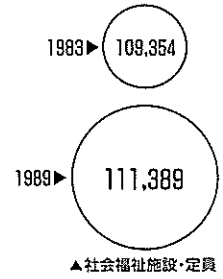
また、人生80年型の地域社会づくり長期計画として、すべての世代で支える充実した高齢社会をめざす北海道21世紀高齢社会ビジョンを策定しました。



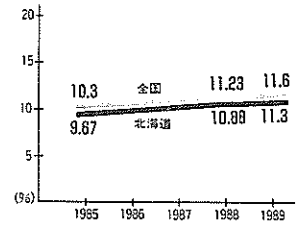
DATA



▲社会福祉施設数



▲社会福祉施設・定員



▲老年人口の推移（65歳以上）

21世紀への発展のシナリオ

確かなあしどりで新しい時代へむかっています。

新しい北海道づくりのガイドライン

北海道新長期総合計画は、北海道が21世紀にむけてすすむべき方向を示すとともに、道行政の基本的指針となるものです。

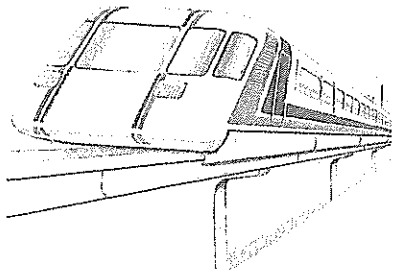
この計画は1984年度から3年を費やして、市町村や各種団体、そして多くの道民の方々の意見を聴き、知恵を集め、有識者による審議会や道議会で論議を重ね、北海道の総意としてつくりあげられました。

力強い確かな歩み

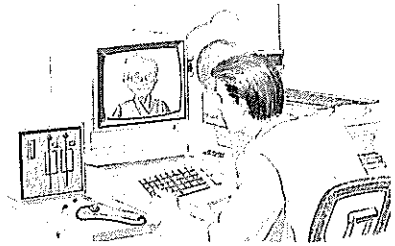
この計画では、北海道を「北方圏とアジア・太平洋地域を結ぶ拠点」として位置づけ、積極的に国際化をすすめ、本道の発展に結びつけていくことを目標の第一にあげています。

計画の推進とともに企業立地がすすみ、情報関連産業の集積が高まり、経済の活性化がすすんで、産業構造の高度化へとたくましく歩みはじめています。

- **北の技術開発ネットワーク**
  技術と研究開発の拠点を創る
- **農業地域産業複合拠点**
  農業と関連産業の集積拠点を創る
- **海洋開発拠点**
  多角的な海洋開発の拠点を創る
- **臨森林型産業都市**
  森林を産業・教育・文化などに利用する
- **国際貿易・技術交流促進機構**
  国際的経済交流と世界の企業を育てる
- **国際協力推進システム**
  北海道独自の国際協力を進める
- **国際リゾート連担都市**
  世界のニーズにこたえる保養・観光ゾーンを創る
- **コミューター航空ネットワーク**
  都市と農・山・漁村を結ぶ
- **地域計画情報システム**
  地域社会や産業活動を活性化させる
- **利雪・親雪プログラム**
  スポーツ・レク、雪や氷に親しむ生活を創る
- **歴史を生かすまちづくり**
  歴史を伝える街並みを生かす
- **航空宇宙産業基地**
  宇宙開発拠点を本道太平洋岸に建設する



- **新世紀型高速交通システム**
  リニア・モーターカーの導入をめざす

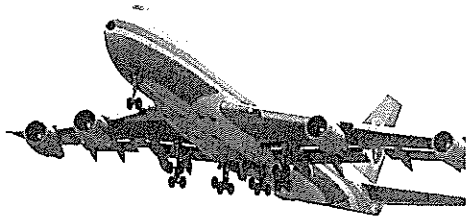


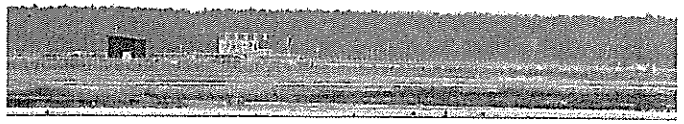
- **医療福祉INS**
  北海道のどこでも医療福祉サービスが受けられる
- **国際エアカーゴ基地**
  新千歳空港に世界の航空貨物の拠点を創る

新長期計画を積極的に推進

計画を具体化するための推進事業として、戦略プロジェクトと地域プロジェクトがあります。戦略プロジェクトは、北海道を浮上させるテコとしての役割をにない、時代を先取りした複合的で新しい発想の15のプロジェクトを展開しています。

また、地域の人々が発想し、地域の力ですすめている39の地域プロジェクトをとりあげて支援し、地域の活性化に力を注いできました。





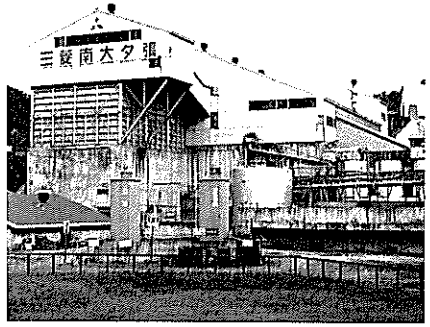
8年間をふりかえって

北海道知事　横　路　孝　弘

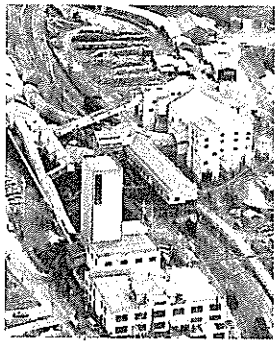
私が皆さんの熱いご支援をいただいて知事に就任して以来、早いもので8年に近い歳月が流れました。ふりかえってみると、めまぐるしい変化とあわただしさに包まれた8年間であったように思われます。

今から8年前、日本そして北海道は、ひとつの大きな転換期にさしかかっていました。産業分野でみると、第1次・第2次オイルショックによって、古い時代の産業がきびしい局面に追い込まれ、いわゆる重厚長大から軽薄短小へと産業の大胆な転換がはかられつつあった時代でした。

ところが、北海道経済はその後進性が目立ち、古い体質を改善できないまま混迷を続けていました。さらに、本道の基幹産業である鉄鋼、造船、水産加工などが構造不況に陥り、石



炭の減炭政策、米・牛乳の生産調整、国際規制の強化による北洋漁業の縮小など、全く出口の見えない八方ふさがりの状態でした。



知事に就任した当時、私の目の前には、このように将来の展望を見失いかけた北海道が横たわっていました。私は、当時こう考えました。北海道も含めて、日本全体が大きな転換期を迎えているという認識が不十分であること、また、企業の育成策をはじめ、北海道をこれからどう育むのかという方向性をもった対応が非常に不足している、ということです。

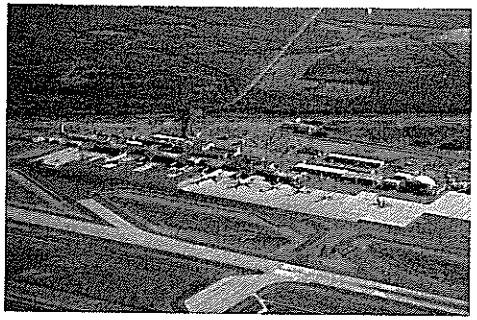
例えば、当時、北海道の工業をとってみると、工業生産の40%を占めている食品産業をどう育てていくのかという仕事を担当している職員が道庁に一人もいないという状態でした。また、当時、大きなウエイトを持ちつつあった情報関連産業についても、問題意識は皆無に等しく、対応は大幅に遅れていました。

私は、こうした時代だからこそ、北海道の将来の方向性・政策をきちんと打ち出すことが急務だと痛感しました。

そこで私は、まず、人材育成と意識改革を中心において新しい課題への対応を試みました。例えば、千歳空港のエアカーゴ基地構想を進めるうえで航空会社と共同で仕事をするなど新しい分野で対応する職員の養成、水産業界と造船業界とをつなぐ職員の養成、民間への職員派遣などを通じて、今では随分専門家が育っています。また、その役割が大変重要になってきている試験研究機関の改革にも積極的に手がけてきました。工業試験場では、コスト面も考えた研究を進めるため、民間との共同研究を行い、多くの成果を生み出していますし、水産試験場では、時代の要請に応えた沿岸漁業にそのテーマを切り替え、活発な研究が進められています。

もちろん、こうした新しい北海道づくりは各地域の皆さんとの連携なしには進みません。私は、この8年間、多くの出会いを重ねるなかで、

いいね北海道570万パワー
新しい北海道づくりにさらにチャレンジしましょう。



さまざまな能力をもった人が、道内のどんな小さな町や村にも実はたくさんいるのだということを再認識しました。新しい北海道づくりのエネルギーは、地域のなかにしっかりと根づいてきているのです。私にとってこれほど心強いものはありません。

北海道の限りない発展の礎は着実に築かれつつあると確信します。

大胆ながらも一歩一歩、細心ながらも挑戦的に、仕事の実現にむけて、私の全てをかけて北海道のためにつくすことをお約束いたします。

三期目にむけて横路道政がめざす五つの目標

環境の保全、健康と緑が大切にされる地域づくり

生活者の心がかよう「人にやさしい北海道」を創る。

――人ひとりが大事にされる社会であるために、きめ細かな福祉・医療サービスなどを総合的、体系的に享受できる総合リハビリテーション・システムの確立をすすめ、自立を支える政策を充実したいと思います――

恵まれた環境を生かし、豊かな生活文化を実現する。

――産業廃棄物や、農薬、化学物質による土壌や地下水の汚染など、多様で複雑化する環境汚染問題に積極的に対応していきます。この恵まれた自然を汚すわけにはいかないのです。私と多くの道民が高レベル核廃棄物の持込みに反対しているのも、汚れのない、優れた自然環境に包まれた「美しい大地」を、子々孫々の代まで誇りをもって引き継ぐことを願っているからです――

豊かさを支える、たくましい北海道の経済を築く。

――農業など一次産業の活性化をすすめ、産地間競争や国際化にも対応できるたくましい産業を育てていきます。技術や情報を含め産業基盤整備を思い切ってすすめるとともに、人づくりにも取り組んでいきたいと思います。きらら397の成功は、こうした土台と関係者の息の長い努力があれば、これらの産業が多くの可能性を秘めたものであることを示しており、私たちに自信を呼び起こすものでありました――

地域に根ざし、世界に開かれた北海道を創る。

――押し寄せる国際化の波にどのようにのぞんでいくかがいよいよ重要になってきています。私は、中国・黒竜江省やアメリカ・マサチューセッツ州との姉妹提携をはじめ、ソ連極東地域との文化、経済交流、直行便の開設やエアカーゴ・テストチャーター便の就航などをすすめてきましたが、それらは、いまや北海道を、「北方圏とアジア・太平洋を結ぶ」国際社会のネットワークのなかに確かに位置づけることにもなっています。国際化に向け、自治体が積極的に行動すべき時代に私たちはいるのです――

民主的で、活力あふれる道政を展開する。

――道政の基本は、市町村の自主性と創意ある試みを大切にすることにあります。道職員と市町村職員との政策交流や市町村サミットを道政の柱にすえてきたのも、こうした考えにもとづくものでありました。さらに、機動的な行政の実現をはかり、市町村はもとより民間の方々と一緒に住民参加の道政をすすめていかなければなりません――

いいね北海道　VOL．1
発行人／西尾　彰
発行所／すみよい北海道をつくるみんなの会
札幌市中央区南3条西5丁目
☎011(232)3000